



---

## Idein、CTCとヨドコウ桜スタジアムが実施する実証実験に エッジAIカメラソリューションを提供

---

3年連続国内シェアNo.1のエッジAI開発プラットフォーム「Actcast」（読み：アクトキャスト）を運営するIdein株式会社（読み：イデイン、代表取締役：中村 晃一、本社：東京都千代田区）は、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（代表取締役社長：新宮 達史、本社：東京都港区、略称：CTC）とヨドコウ桜スタジアム（指定管理者：一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブ、所在地：大阪府大阪市）が共同で実施する実証実験に、エッジAIカメラソリューションを提供しました。

実証実験では、スタジアムの来場者数や属性情報をリアルタイムに収集・分析し、運営課題の可視化や改善を行いながら、2025年度内の導入を目指した新たな顧客体験につながる施策を検討します。

ヨドコウ桜スタジアムは、サッカー、ラグビー、アメフトなど、スポーツに関連するイベントの年間の来場者数は32万人を超え、卒業式や入学式、結婚式などのイベントも年間130件以上開催される、日本でも数少ない駅近のスタジアムです。2021年4月のリニューアルオープンからまもなく5年目を迎えるにあたり、多くの来場者に向けたより安心・安全なスタジアム運営とマーケティングを通じた新しい施策を検討してきました。

CTCとヨドコウ桜スタジアムの実証実験は、スタジアムの入場ゲートにエッジAIカメラを設置し映像を解析することで、これまで見えなかった課題の可視化や改善を行い、新たな顧客体験につながる施策の検討につなげるものです。

入場者の人数・性別・年代などのリアルタイム判別や、データ分析、グラフや表での視覚的な表現などを活用して、来場者の傾向を把握し、物販品・フードの品揃えの検討におけるAIカメラやデジタルデータの有効性を確認したり、来場者の視線からサイネージの効果を評価して広告内容の改善やサイネージの設置場所の検討につなげたりして、マーケティング施策の検証を進める予定です。

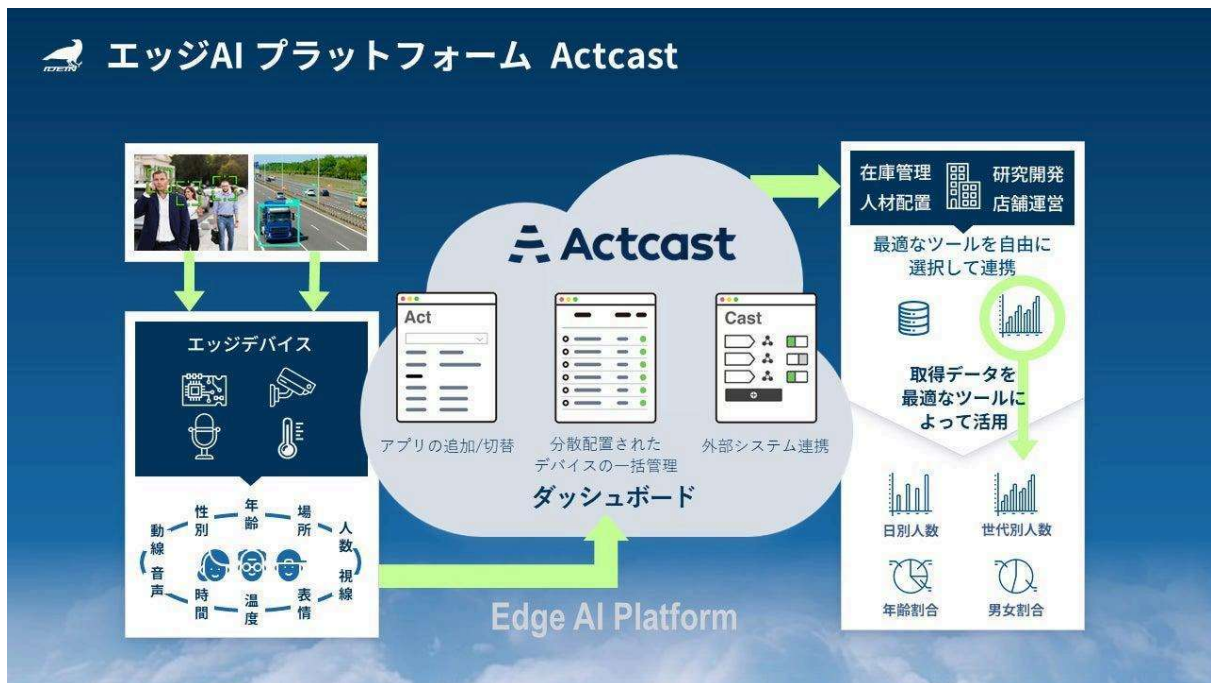
また、混雑や危険な状況のリアルタイムな把握を通じた来場者のケアといった、運営スタッフの業務効率化や顧客満足度の向上も検討します。

CTCは、イベント会場での人流データの可視化や集客分析など、IdeinのエッジAIカメラを活用したシステム構築の実績があり、今回の実証実験でも、ニーズに応じた環境の構築や運用の支援、専門チームによるデータ利活用・開発の支援を含めて、ヨドコウ桜スタジアムのDXの推進をトータルにサポートします。

Ideinは、今回の実証実験に、エッジAIカメラ「ai cast」（アイキャスト）とエッジAIプラットフォーム「Actcast」を提供します。ai castは、デバイス内でリアルタイムにAIデータの処理を行う小型・高性能なエッジAIカメラです。Actcastとの連携により、素早く的確に顔認証ができたり、被写体の姿勢・様子から動線を推定できたりするなど、精度の高い分析や検知が可能です。収集したデータは、個人情報を含まないテキストデータとしてクラウドサービスに保存されるため、プライバシーに配慮した運用が可能です。

## ■エッジAIプラットフォーム「Actcast」について

Actcastは、AIソリューション開発企業向けのプラットフォームサービスです。AIソリューションの社会実装に共通して必要なインフラ部分にActcastをご利用いただくことで、AIカメラやAIマイクなどを活用した様々なAIサービスの「低価格・迅速・大規模」な導入を実現します。



### <「Actcast」のその他の特長>

- ・カメラ、マイク、温度計などを搭載したセンシングデバイスを使用して、リアル空間のあらゆる情報を収集・活用できます
- ・リモートで大量のデバイスの管理・運用ができます
- ・登録台数は累計で16,000台を超えており、本導入・大規模運用の実績が豊富にあります
- ・170社を超える様々な業界のパートナー企業と強固なエコシステムを形成しています
- ・エッジAIは必要最低限の情報だけをクラウドへ送るため、プライバシー・機密情報に配慮しながら利用できます
- ・高度なAI解析を小型で安価な汎用デバイスで実行できるため、デバイスのコストを大幅に削減できます
- ・Idein独自の高速化技術により、AIモデルを軽量化することなく最先端のAI解析ができます



# Idein Inc.

## ■エッジAIカメラ「ai cast」について

Ideinが技術協力をし、株式会社アイシンが開発・製造するエッジAIカメラです。AIアクセラレーターチップ「Hailo-8」を搭載したことで、1台8万円という低価格ながら高性能なAIが実行可能です。小売業や製造業等での活用をはじめ、セキュリティや防犯用途などのインフラカメラとして、例えば「スマートシティ」における街や自動運転車両の見守り用途としての活用も想定しています。エッジAIプラットフォーム「Actcast」と連携済みのため、Actcast上で提供されている様々なAIアプリをカメラにインストールするだけで現場にエッジAIを迅速に導入できます。



## ■エッジAIカメラを用いた実証実験イメージ



- ※ 記載されている商品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。
- ※ 掲載されている情報は、発表日現在の情報です。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。

## 「国内シェアNo.1について」

デロイト トーマツ ミック経済研究所 『AI（ディープラーニング）活用の画像認識ソリューション市場の現状と展望 2024年度版』（<https://mic-r.co.jp/mr/03210/>）「提供形態別市場シェア【SDK/開発プラットフォーム】」の調査結果に基づく。2024年度は見込み値。

## ■Idein株式会社 概要

安価な汎用デバイス上での深層学習推論の高速化を実現した、世界にも類を見ない高い技術力を有するスタートアップです。当該技術を用いたエッジAIによる現場データ収集プラットフォーム「Actcast」を開発し、実用的なAI/IoTシステムを開発・導入・活用する開発者及び事業会社へのサービス提供を行っております。今後もパートナー企業と共に、AI/IoTシステムの普及に貢献してまいります。「実世界のあらゆる情報をソフトウェアで扱えるようにする」をミッションに掲げ、日本国内では経済産業省 J-Startup選定をはじめ、日本経済新聞社 NEXTユニコーン企業にも選ばれています。英Arm社のAI Partnerや、米NVIDIA社のInception Program Partnerに選定されるなど、海外でも高く評価いただいています。



【設立日】 2015年4月7日

【代表者】 代表取締役 中村 晃一

【所在地】 東京都千代田区神田神保町1-4-13

【事業内容】 Actcast事業（エッジAIプラットフォームの開発・運営）、共同研究開発事業（次世代自動車開発での協業等）

コーポレートサイト：<https://www.idein.jp>

---

## 本件に関するお問い合わせ

Idein株式会社 広報室 高橋（メールアドレス：[pr@idein.jp](mailto:pr@idein.jp)）